

大樋焼

歴史と特色

오히도자기

寛文6年(1666年)に加賀藩5代藩主前田綱紀が京都より千仙叟宗室を招いた際、同行した土師[はじ]長左衛門が、金沢の大樋村に楽焼の窯を開いたのが始まりで以後、前田家の御用窯として栄えた。明治維新と第二次世界大戦で大きな影響を受け衰退していたが、生活の安定や茶道の普及で復興した。

初代長左衛門が楽茶碗の黒と赤を禁じられたため工夫して鉛色を創案したと言われ、雪国にふさわしい暖かい味がある。

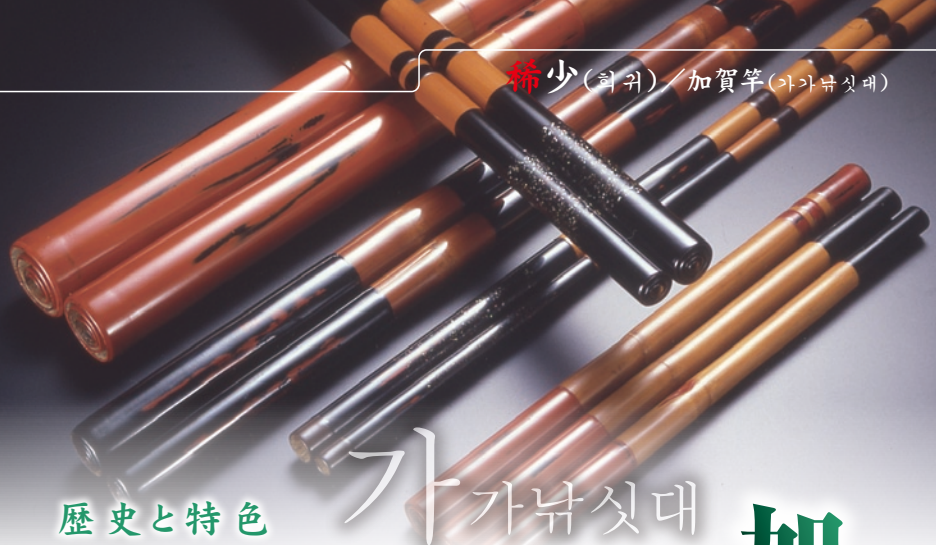
土作りから本焼きまで手作りの一貫作業であり、素朴で暖かい味があり、茶陶を中心に生産されている。

역사와 특색

1666년에 가가번 5대 번주가 교토로부터 센센소시쓰를 초대했을 때, 동행한 하지 조자에몬이 가마를 만든 것이 시초이다. 초대 조자에몬이 라쿠차완의 흑색과 적색의 사용을 금지당함에 따라 연구해 황갈색을 창안해 낸 것이다. 소박하고 따뜻한 느낌을 준다.

▶ 情報 정보

主な生産地(주요 생산지)	金沢市(가나자와시)
主な製品名(주요 제품명)	抹茶碗、水指、菓子鉢、酒器(말차그릇, 미즈사시, 과자그릇, 주기)
主な生産者(주요 생산자)	十代大樋長左衛門(10대 오히조자에몬) 〒920-0911 金沢市橋場町2-17(가나자와시 하시바초 2-17) TEL (076)221-2397 大樋勘兵衛(오히칸베에) 〒920-0918 金沢市尾山町2-8(가나자와시 오야마마치2-8) TEL (076)231-0306



歴史と特色

가가뉘싯대

加賀竿

加賀藩の奨励する鮎釣りにおいて、当初釣人が竿をつくっていたが、元禄の頃より竿師が現れ継竿を作るようになった。明治時代にはいと庶民にも魚釣りが解放され、釣竿製作も盛んになり、鮎の高級竿だけでなく、大衆向きの鯛竿の生産も順調に伸びた。第2次大戦後、グラスファイバー製釣竿の普及や海釣りへの移行で大打撃をうけたが、本物を求める釣人の強い支持を得て、需要は安定している。

釣竿は全天候に対して耐久性があり、軽く扱い易さが望まれるため、2年生の竹を高熱加工して強靱さをもたせ、さらに漆塗で補強と装飾性を加味し、長期使用に耐えられる堅牢さを持った美術工芸品として定評がある。

역사와 특색

가가에서는 당초 무사의 은어뉘시를 위한 '가가사오'라고 하는 고급스런 뉘싯대가 만들어졌으며, 후일 저렴한 대중용 봉어뉘싯대의 생산도 증가했다. 2년생 대나무를 고열가공하여 단단하게 만든 다음, 옷칠로 강도를 높이고 장식성을 가미한 경량의 뉘싯대는 제 2 차 세계대전 후, 글라스 파이버로 만든 뉘싯대가 보급된 후에도 여전히 인기가 높다.

▶ 情報 정보

主な生産地(주요 생산지)	金沢市(가나자와시)
主な製品名(주요 제품명)	友釣竿、ヘラ鮎釣竿(후림뉘싯대, 떡봉어 뉘싯대)
主な生産者(주요 생산자)	目細八郎兵衛商店(메보소하치로베에 상점) 〒920-0854 金沢市安江町11-35(가나자와시 야스에초 11-35) TEL (076)231-6371